

教員組織、教員の学位・業績

平成28年度 教員組織

平成28年5月1日

	文学部				教育学部			生活創造学部		心理相談センター	合計
	国際英語学科	史学学科	心理学科	日本文化学科	幼児教育学科	児童教育学科	社会教育学科	生活文化学科	観光文化学科		
教授	菱田信彦 ウィリアム・キスチャック 小山久美子 長島一比古	副学長 西川誠 高津純也 金尾健美 生井澤幸子	鶴沼秀行 岩崎利彦 田中裕 橋本(北原)靖子 蓮見元子 松原由枝子 蓑下成子 矢野重昭	学長 熊谷園子 長崎靖子 内海崎貴子	柳澤安雄 草信和世 近藤光江 永井理恵子	松井洋士 福士颯士 猪瀬義明子 尾見敦一 田中孝一 原田耕平	藤原昌樹 正司(藤田)節子 西川將巳 二上政夫	川崎恵里子 坂口早苗 今井久美子 大坂佳保里 小野崎康裕 坂口武洋 林正之 永嶋久美子 柚木理子	西岡祥文 高山啓子 田中朋子 丹治久男 寺本久子 戸澤純子 藤井信行		
小計	4	4	9	3	4	6	4	9	7	0	50
准教授	篠田(小泉)朝子		桂瑠以	真田尊光 須山(山名)順子	今泉(菅井)洋子 近藤千草 竹内啓子 箕輪潤子	松井浩 三好(馬上)美知 高橋裕子					
小計	1	0	1	2	4	3	0	0	0	0	11
講師	倉林直子	辻浩和 松尾(辻)明日香		及川祥平 森田直美	手塚崇子 古屋朝映子	松本祐介	佐久間美穂	関目綾子	渡邊徹		
小計	1	2	0	2	2	1	1	1	1	0	11
助教	マクシム・シャハリ シャーロット・コフ		佐藤哲康		西村彩恵						
小計	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4
助手								阿部祐加子 浮田郁恵 甲山恵美		西村知香	
小計	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4
合計	8	6	11	7	11	10	5	13	8	1	80

平成28年度 教員の学位・業績等

文学部 国際英語学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
菱田 信彦	教授	筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得退学	修士(文学)	イギリス小説	英米児童文学、文学批評理論	国際コミュニケーション(イギリス研修)	イギリス文化史(1)、(2)	「シェイクスピア受容とEnglishnessの生成：チャールズ・ラムの『シェイクスピア物語』について」、『Tinker Bell』第56号、41-54頁(日本イギリス児童文学学会、平成23年)	「学校物語の伝統からみる『ハリー・ポッター』シリーズ」、『平成24年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「イギリス児童文学の原点と展開：家庭小説・冒険小説・創作童話・学校物語」』、80-111頁(国際子ども図書館、平成24年)	「ダイアナ・W・ジョーンズ『ハウルの動く城』におけるウェールズ表象と階級意識」、『川村学園女子大学研究紀要』25(1)、17-28頁(川村学園女子大学、平成26年)	「メアリー・ノートンの『小人たち』シリーズにおける女性のリテラシー」、『Tinker Bell』第59号、43-56頁(日本イギリス児童文学学会、平成26年)	『快読「赤毛のアン」』(彩流社、平成26年)
W・キスチャック	教授	法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻	修士(文学)	シーラ・ワトソン研究	能楽研究	卒業研究(パフォーマンス)	EIA, II (English in Action)	シーラ・ワトソン Rough Answerの試訳及びワトソンの年譜, 川村英文学第8号, 2003年3月	シーラ・ワトソン Brother Oedipus—a story-の試訳, 川村英文学第9号, 2004年3月	シーラ・ワトソン研究 The Black Farm-A Modern Allegory-の試訳, 川村学園女子大学研究紀要第16巻第1号, 2005年3月	シーラ・ワトソン研究—短編 Antigoneの試訳—, 川村学園女子大学研究紀要第17巻第1号, 2006年3月	シーラ・ワトソン研究—短編 The Rumble Seat, 短編 And the Four Animalsの試訳—, 川村学園女子大学研究紀要第18巻第1号, 2007年3月
小山 久美子	教授	日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程後期単位取得満期退学	文学修士	言語学	英語教育	言語学入門	英語科教育法	『英語学用語辞典』(共)三省堂, 1998年	「英語における分裂文—新聞英語の場合—」(単)『川村学園女子大学研究紀要』第10巻, 2003年	「広告における比喩的表現」(単)International Journal of Pragmatics vol. XVI, 2006年	「英語教育における語用論の役割」(単)『川村学園女子大学研究紀要』第24巻, 2013年	「中学校英語科教育における実践的コミュニケーションの指導法に関する研究」(単)『川村学園女子大学研究紀要』第26巻, 2015年
長島 一比古	教授	青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻	文学修士	イギリス詩(イギリス・ロマン派を中心に)		英文法	インターナショナル・プログラム	「ブレイクの『ティリエル』における無垢と経験対立と否定の関連において」『川村英文学』第18号 2013	「『アルピオン』の娘たちの幻想』における愛と性の解放 対立と否定との関連において」『川村英文学』第13号 2007	「ブレイクのヴィジョンにおける子どもと喜び 「はじめのうた」における強弱格の用法」『川村学園女子大学研究紀要』第16巻 第2号 2005	「ブレイクのヴィジョン 想像力と永遠の實在」『川村学園女子大学研究紀要』第15巻 第2号 2004	
小泉 朝子	准教授											
倉林 直子	講師	津田塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学	修士(文学), MA (History, University of Virginia)	アメリカ史	日米関係史	アメリカ文化史	国際関係入門	「リチャード・ニクソンのイメージ戦略とその効果」津田塾大学紀要 第46号、2014年3月	「駐留米軍をめぐる政府と議会の関係—ジラード事件への対応を中心に—」麗澤大学紀要 第93巻、2011年12月	“Conflict or Agreement?: Economic Assistance to Southeast Asia and U.S.-Japanese Relations During the Nixon Administration” The Tsuda Review No. 52、2007年11月	“Operating from Weakness: Japan’s Role in Nixon’s and Kissinger’s Grand Strategy” The Tsuda Review No. 51、2006年11月	“The Security Treaty Crisis of 1960: Japanese and American Views” Tsuda Inquiry 第26号、2005年4月
シャーロット・ゴフ	助教	オックスフォード大学セントキャサリンズ・カレッジ大学院	修士(中世研究)(M.St.)	歴史学(中世研究)	宗教学	美学(1)	女性文化史(1)(2)	10世紀前後のスカンジナビア半島における女性の信仰や宗教的活動について修士論文を提出(平成25年6月)	『東京ジャーナル』、『ソウルジャーナル』、『ファッション・ワン』などの雑誌、インターネットメディアにおいてファッション関連などの記事を執筆(平成26年3月~6月)			
マクシム・シャバリン	助教	オックスフォード大学、マートン・カレッジ、東洋研究所	文学博士(D.Phil.)	東洋研究	国際政治学	日本の政治と国際社会(1)(2)	海外から見た日本(1)(2)	第2回ヨーロッパ日本研究ラウンドテーブル「北東アジア安全保障再考」(イギリス、シェフィールド大学)に参加(平成20年3月)	イギリス日本研究協会年次大会(イギリス、マンチェスター)にて口頭発表(平成20年4月)	日本政治学コロキウム年次大会(イギリス、リーズ大学)にて口頭発表(平成20年9月)	ワークショップ「なぜ(いまだに)日本は重要なのか」(イギリス外務・コモンウェルス省およびシェフィールド大学)において、日本とロシアの関係について報告(平成21年4月)	ヨーロッパ日本研究協会大学院生ワークショップ(イタリア、サレント大学)にて口頭発表(平成21年9月)

平成28年度 教員の学位・業績等

文学部 史学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
西川 誠	教授	東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退	文学修士	日本近代史	日本政治史	日本史概説(2)	日本史(1)	『日本政治史の新天地』(共著)(吉田書店, 2013年)	『史料を読み解く4 幕末維新の政治と社会』(共著)(山川出版社, 2009年)	『日本立憲政治の形成と変質』(共編著)(吉川弘文館, 2005年)	『山縣有朋関係文書』全3巻(共編)(山川出版社, 2004~2007年)	『木戸孝允関係文書』1~4巻(共編)(東京大学出版会, 2005~2009年)
高津 純也	教授	東京大学大学院人文社会学系研究科アジア文化研究専攻修了	博士(文学)	中国古代史	中国思想史, 中国古文字学	アジア史研究入門(1)	アジア史概説(1)	『水経注疏訳注(渭水篇)』, 共著, 財団法人東洋文庫, 上巻2008年, 下巻2011年	『先秦時代の『諸夏』と『夷狄』』, 単著『日本秦漢史学会会報』第1号, 2000年	『地下からの贈り物—新出土資料が語るいにしえの中国—』, 共著, 東方書店, 2014年	『荀子』『禮記』引書再考—楚簡本「緇衣」の出現を踏まえ—, 単著『中国出土資料研究』第16号, 2012年	『尚書』諸篇の成立に関する一考察—戦国諸国における同時並行的な成書について—, 単著『史学雑誌』第116篇第11号, 2007年
金尾 健美	教授	パリ第4(ソルボンヌ)大学歴史学研究科博士課程(Doctorat)	パリ第4(ソルボンヌ)大学・歴史学博士(平成4年3月修得)	西洋中世史	西洋経済史	西洋史演習(1)	西洋古代・中世史	(学術論文)1998~2010年, 単著「ヴァロワ家ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの財政(1)~(7)」『川村学園女子大学研究紀要』vol. 9 (1998)No. 1 pp.39-75. vol. 17(2006)No. 1 pp.1-28. vol. 18(2007)No. 1 pp.1-38. vol. 19(2008)No. 1 pp.15-43. vol. 20(2009)No. 1 pp.1-51. vol. 21(2010)No. 1 pp.79-102. vol.22(2011)No.2 pp.207-223.	(学術論文)2015年, 共著, “La Levée d’Argent dans le Duché de Bourgogne en 1421 d’après le compte du Bailliage d’Auxois” TOUBERT, Pierre pr é face, Dominique BARTHELEMY, Jean-Loup LEMAITRE, 加納修 他30名 « Entre texte et histoire. Etudes d’histoire médiévale offertes au professeur Shoichi Sato » De Boccard, 所収pp.157-182.	(学術論文)2007年, 単著 “Monnaie et politique monétaire dans les lettres rédigées à Dijon en 1420” 佐藤彰一 編『歴史・地図テキストの生成テキスト/コンテキスト2』21世紀COEプログラム:「統合テキスト科学の構築」第10回 国際研究集会報告書 pp.49-59 およびpp.101-109.	(学術論文)2015年, 単著「アンジュ—地方ラ・ソーレイ村地代帳の読解—ロブリエール家文書の解明に向けて—」『川村学園女子大学研究紀要』vol.26(2015)No.1 pp.29-53.	(学術論文)2016年, 共著, 「御用金と借入金—1430年代ブルゴーニュ公領の事例—」藤井美男編『ブルゴーニュ国家の形成と変容—権力・制度・文化』九州大学出版会 所収, pp. 243-266.
生井澤 幸子	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程単位取得満期退学	理学修士(東京大学)	都市地理学	交通地理学, 経済地理学	地理学概説(都市と自然環境・流通地理学)	地誌学(日本・ドイツ)	(共訳2人)図説大百科世界の地理, 全22巻, 18.『南部アフリカ』朝倉書店, 普及版, 2010年	(共編著)『海と空の港大事典』成山堂, 2011年 (共著)『人文地理学事典』丸善, 2013年	(共著)『拡大EUとニューリージョン』, 原書房, 2012年	(共著)『世界地理講座 中央・北ヨーロッパ』朝倉書店, 2014年	港湾審議会委員(東京都・千葉県・横須賀市)を歴任、千葉県選挙管理委員会委員, 2004~2012年
辻 明日香	講師	東京大学大学院人文社会学系研究科アジア文化研究専攻修了	博士(文学)	西アジア史		アジア史概説(2)	アジア史研究入門(2)	“The Depiction of Muslims in the Miracles of Anba Barsauma al-‘Uryan,” in Mariam Ayad (ed.), Studies in Coptic Culture: Transmission and Interaction, Cairo: The American University in Cairo Press, 2016.	“Preliminary Report on Four saints from the Mamluk period: Hadid, Yuhanna al-Rabban, Barsauma al-‘Uryan, and ‘Alam,” in Paola Buzi et al. (eds.), Coptic Society, Literature and Religion from Late Antiquity to Modern Times: Proceedings of the Tenth International Congress of Coptic Studies, Rome, September 17th-22nd, Louvain: Peeters, 2016.	「11世紀後半—14世紀下エジプトにおけるキリスト教徒集落の消長」『日本中東学会年報』第31-2号(2016年3月)。	「コプト聖人伝に見られる驚異な奇跡譚」山中由里子(編)『<驚異譚>の文化史』名古屋大学出版会, 2015年。	「14世紀アラビア語コプト聖人伝史料に関する一考察」『オリエント』第54巻第2号(2012年3月)。
辻 浩和	講師	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了	博士・人間・環境学	日本中世史	芸能史	日本史研究入門(1)(2)	日本女性史(2)	博士論文『中世(遊女)の身分とその支配』(京都大学大学院人間・環境学研究科, 2012年11月受理)	『新興芸能の流行と貴族社会への定着過程—歴史的観点から』(『芸能史研究』210, 2015)	『室町期芸能史研究の現在』(『歴史評論』767, 2014)	『後白河と<都市民>』(『古代文化』第60巻第3号, 2008)	『院政期における後鳥羽芸能の位置—後白河芸能との関係を中心に』(『史学雑誌』第116編第7号, 2007)

平成28年度 教員の学位・業績等

文学部 心理学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
鶴沼 秀行	教授	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程(単位取得退学)	博士(教育学)	知覚心理学	認知心理学	心理統計法(1)(2)	基礎実験実習(1)(2)	【著書】対象の認識における情報の時間空間的統合と知覚的表象の形成, 単著, 早稲田大学出版会, 2013	【著書】はじめての心理統計法, 共著, 東京図書, 2008	【学術論文】Spatiotemporal integration and contour interpolation revealed by a dot localization task with serial presentation paradigm, 共著, Wiley Blackwell 日本心理学会, Japanese Psychological Research, 2010	【学術論文】Facial features in perceived intensity of schematic facial expressions, 共著, Ammons Scientific, Perceptual and Motor Skills, 2010	【学術論文】Perceptual learning of facial expressions, Vision Sciences Society, 共著, Journal of Vision, 2013
岩崎 利彦	教授	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士前期課程 修了	修士(スポーツ健康科学)	スポーツ社会学		スポーツ(2)	キャリアプランニングⅠ キャリアプランニングⅢ(2)					
北原 靖子	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	文学修士	発達心理学	発達臨床	発達心理学特殊講義(2)	基礎実験実習	(著作)(分担)教育相談—子どもの理解とカウンセリング—, 大学図書出版, 2012	(報告書)(分担)放課後のまなび—事例をもとに調べる・考える・広げる—平成24~26年度 科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号24530833)報告書, 2015	(論文)(共著)軽度発達障害の思春期支援について考える—二次的障害を予防してゆくために—(2009)川村学園女子大学心理相談センター紀要, 5, 55-68	(学会シンポジウム)こどもの「本当の声」を聴くにはどうしたらよいか? (2010)日本発達心理学会第21回大会発表論文集R3-6, 自主ラウンドテーブル企画・話題提供	(論文)(単著)行動観察の心理学実験指導—睡眠記録とハーディネス尺度を用いて—(2014)川村学園女子大学研究紀要, 25, 119-131.
田中 裕	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	生理心理学		生理心理学(文学部心理学専攻専門科目)	生理心理学特講(大学院心理学専攻専門科目)	Yu TANAKA, Takenobu OHISHI, Etsuko HAYASHI, Rumiko KATO, Hideoki TADA (2013)【共著】Eyeblick as a formative assessment technique for people with profound multiple disabilities Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities Vol. 10, pp. 174.	田中裕(2009b)学習と条件づけと動機づけ【共著】『社会福祉学習双書』編集委員会(編)社会福祉学習双書2009 第11巻 心理学 第1章 第5節 全国社会福祉協議会出版部 pp.25-29.	田中裕(1999)【単著】覚醒水準と瞬目活動心理学研究 Vol.70 pp.1-8.	田中裕(2002a)【単著】視覚作業休息下における随意性瞬目の効果 川村学園女子大学研究紀要, 第13巻 第1号 pp.159-168.	田中裕(2008a)【単著】低ストレス事態における自発性瞬目, α アミラーゼおよび心臓血管系指標の特性について 川村学園女子大学研究紀要, 第19巻 第1号 pp.117-128
蓮見 元子	教授	東京大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得満期退学	教育学修士	発達心理学	発達臨床心理学	発達心理学概論	心理学演習	【著書】子どもの発達過程と心理臨床, 単著, 宣協社, 2001年4月	【学術論文】放課後子ども教室について児童の声を聴く—タッチパネル式パソコンを使って—2009年3月, 共著, 川村学園女子大学研究紀要	【学術論文】子どもの心理相談事例における見立て—「絵」・「遊び」・「語り」を通して— 2009年3月, 共著, 川村学園女子大学心理相談センター紀要	【著書】教育相談—子どもの理解とカウンセリング—, 共著, 大学図書出版, 2012	【学術論文】小学校低学年児童および保護者を対象とした放課後生活空間評価尺度の作成の試み, 共著, 川村学園女子大学研究紀要, 第23巻, 第2号, 2012
松原 由枝	教授	大正大学大学院人間学研究科臨床心理学専攻修士課程(前大正大学カウンセリング研究所カウンセリング技能修士課程)	博士(文学)	臨床心理学	深層心理学, カウンセリング, 芸術療法	臨床心理実習(大学院)	臨床心理学特講(大学院)	心のケアのためのカウンセリング大事典(共著)(培風館, 2005)	ソンディ・テスト—心理臨床に生かす活用法(単著)(培風館, 2009)	カウンセリング心理学(共著)(培風館, 2009)	ソンディ・テストマニュアル(千葉テストセンター, 2011)	Matsubara Y, Shiadou A, Nishimura C. Certain Application of the Szondi-Test – with the collage Therapy for the Senior—THE KOREAN DEVELOPMENTAL URPORTING CENTER The Journal of Clinical Art Psychotherapy 2(1)109-128, 2012
養下 成子	教授	筑波大学大学院博士課程医学研究科卒業	博士(医学)	臨床心理学	犯罪心理学	非行・犯罪心理学(学部)	臨床心理面接法特講(大学院)	1. 編集:小田晋, 編集協力:佐藤親次, 森田展彰, 司法精神医学と精神鑑定, pp.107-146 (第IV章.精神鑑定における心理テスト), 医学書院, 平成9年 4月.	養下成子, 小島秀悟, 佐藤親次, 表情認知の精神病理学的研究, 脳の科学, Vol22. 2, pp.177-181, 2000.	養下成子, 森田展彰, 佐藤親次, 浅井義弘, 統合失調症患者における表情認知と社会適応度の関係—能面テスト(Noh Mask Test)を用いて— 社会精神医学雑誌 12(3)253-261, 2004.(Minoshita S, Morita N, Satoh S, Asai Y. Relationships between facial expression recognition and social adjustment in schizophrenia. —The Noh mask Test as a social skill assessment— Japanese Bulletin of Social Psychiatry 12(3)253-261, 2004.)	Minoshita S, Morita N, Yamashita T, Yoshikawa M, Kikuchi T, Satoh S, Recognition of affect in facial expression using the Noh Mask Test: Comparison of individuals with schizophrenia and normal controls. Psychiatry and Clinical Neurosciences ,59, 1, 2005, pp.4-10.	Minoshita S, Yoshikawa M, Morita N, Kikuchi T, Yamashita T, Satoh S, The relation between the recognition of facial expression and the employment of schizophrenics: using the score of the Noh Mask Test. Proceedings: The 2nd International Conference on Cognitive Science and The 16th Annual Meeting of the Japanese Cognitive Science Society Joint Conference, Tokyo, 1999, July, pp.367-372.
矢野 重典	教授	京都大学法学部	法学士	教育行政学	教育法学	生涯学習概論	教育法規	「講座 地教法」(文部省地方課「教育委員会月報」)1984年, 2月, 4月, 6月号	教務ハンドブック(共同執筆), 文部省教職研究会編, 1985年	学校経営ハンドブック(共同執筆), 文部省教職研究会編, 1986年	「これからの地方教育行政への期待」(文部省地方課編「教育委員会月報」)2004年, 4月	「個に応じたきめ細やかな指導の実現と教職員配置」(文部科学省初等中等教育企画課編「教育委員会月報」)2001年, 7月
渡邊 昭彦	教授	東京大学文学部, 東京医科歯科大学医学部医学科	文学士(文学), 医学士(医学)	児童青年精神医学	司法精神医学	精神医学, 臨床心理学特殊講義	精神医学特講, 精神薬理学(大学院)	心気症と精神分裂病(共)精神科治療学	児童思春期のヒステリー再考(共)精神科治療学	障害者心理学(共)健甌社	カプラン・臨床精神医学ハンドブック(第四版)(共)メディカル・サイエンス・インターナショナル	カプラン・カプラン臨床精神医学Q&Aレビュー(共)メディカル・サイエンス・インターナショナル
桂 瑠以	准教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	博士(人文科学)	社会心理学	教育心理学	社会心理学概論	社会心理学特殊講義Ⅱ	【著書】新・青年心理学ハンドブック, 共著, 福村出版, 2014	【著書】考えるための心理学, 共著, 武蔵野美術大学出版局, 2012	【著書】メディアとパーソナリティ, 共著, ナカニシヤ出版, 2011	桂瑠以・坂元章 2014 ウェブ日記の執筆量が精神的健康に及ぼす影響—媒介効果を検討したパネル調査— 応用心理学研究, 40, 177-185.	【学術論文】耳塚寛明・桂瑠以 2013 学生寮への教育的期待—お茶大SCCの実践と課題— 京都大学高等教育研究, 19, 87-97.
佐藤 哲康	助教	立正大学大学院文学研究科哲学専攻博士後期課程(単位取得満期退学)	修士(文学)	臨床心理学	カウンセリング心理学	臨床心理学特殊講義Ⅱ(学部)	臨床心理査定演習(大学院)	【単著】大学生のアサーティブな自己表現と文化的自己観, 川村学園女子大学研究紀要, 第24巻1号, pp.141-157, 2013	【分担】心理統計の基礎, 松原達哉・楡木満生・田上不二夫(編), カウンセリング心理学ハンドブック[実践編], 金子書房, 2011.	【単著】消極的な対人関係を取る大学生へのREBTアプローチを介入に用いたアサーション・ロールプレイング, REBT研究 1巻, pp.29-42, 2010.	【共著】待つ相談室から働きかける機能を包括した学生相談室への展開, 学生相談研究 29号2巻, pp.153-165, 2008.	【共著】自ら助けを求めず潜在している学生に対する学内協働による取り組み, 学生相談研究 28号3巻, pp.214-224, 2008.

平成28年度 教員の学位・業績等

文学部 日本文化学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
熊谷 園子	教授	青山学院大学大学院文学研究科	文学修士	イギリスロマン主義	英米詩	国際文化特講(英米詩)		"Mont Blanc" - Shelleyの汎神論的不可知論 単著,川村英文学3号,1998	シェリーとアイルランド - crisisの意識を巡って,単著,英語青年,第140巻7号,研究社,1994	ポール・マルドゥーンとの出会い,単著,国文社,1994	パイロンとエルギンマーブルズ,単著,イギリスロマン派研究16号,1992	Shelleyの『生の凱旋』における三つのヴィジョン,単著,渦4号,(渦の会)1987
長崎 靖子	教授	日本女子大学大学院文学研究科博士課程後期日本文学専攻博士学位取得修了	博士(文学)	日本語学	日本語史	日本語学	日本語の歴史	[著書]『断定表現の通時的研究-江戸語から東京語へ-』,単著,武蔵野書院,2012	『式亭雑記』諸本に関して一八種の抄録写本の調査から-,単著,『近代語研究』第17集,近代語学会,2013	『慶応義塾図書館所蔵『式亭雑記』一翻刻と解説-』,単著,『川村学園女子大学研究紀要』第25巻第1号,川村学園女子大学,2014	『パリ万博録音資料の分析-江戸・明治期を中心とした口語資料との比較から-』,単著,『近代語研究』第18集,近代語学会,2015	『式亭三馬の蔵書-国会図書館所蔵三馬蔵書印書を中心に-』,単著,『川村学園女子大学大学院年報』第4号,川村学園女子大学大学院,2015
内海崎 貴子	教授	上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得満期退学	文学修士	教育学(人権教育/ジェンダー平等教育)	女性学	教育原理	女性学	[著書]『教育原理』共著,光生館,2012年	[著書]『迷惑なひと・ことは教育の救世主-事例から学ぶ教育の方法論』共著,あいり出版,2013年	[著書]『新・教職入門』共著,学文社,2014年出版,2013年	[著書]『教職のための教育原理』編著,八千代出版,2015年	[報告書]関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会『教員採用試験における適性検査問題に関する実態調査(3)』(代表 内海崎貴子),共著,2015年
真田 尊光	准教授	高野山大学大学院文学研究科密教学専攻博士後期課程修了	高野山大学:博士(密教学)・修士(密教学)、早稲田大学:修士(文学)	仏教美術史	日本美術史	日本の美術(1)	日本の美術(2)	『唐招提寺伝衆宝王菩薩立像・伝獅子吼菩薩立像の造立意図』(『佛教藝術』第343号、毎日新聞社、2015年)	『大安寺伝馬頭観音立像の周辺』(『奈良美術研究』17号、早稲田大学奈良美術研究所、2016年)	『千住と美術-船津文淵閣連資料もあわせて-』(『文化遺産調査特別展「美と知性の宝庫 足立」図録』、足立区立郷土博物館、2016年)	(共著)『芸術教養シリーズ2 日本の芸術史 造形篇Ⅱ 飾りと遊びの豊かなかたち』(藝術学会、2013年)	(共著)『足立区仏像調査報告書』(足立区立郷土博物館、2013年)
山名 順子	准教授	お茶の水女子大学大学院博士後期課程人間文化研究科修了	博士(人文科学)	日本文学(近代)	日本文学(近世)	日本文学史(2)	日本文化専門演習Ⅲ(日本近代文学)	『『圃老巷説菟道園』に関する一考察 -第三卷「和氣清麻呂河伯に巫を投する事」を中心に』『日本文学』日本文学協会 2006	『山東京伝』『絵本梅花水裂』と『人間文化創成科学論叢』お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 第十号 2008	『『雙蝶白糸冊子』についての一考察』『国文』110号 お茶の水女子大学 2008	『中等国語教育における文部省唱歌利用の可能性-教室からの実践報告-(二)』『川村学園女子大学研究紀要』第26巻1号 2015	[共著]『化物で楽しむ江戸狂歌-『狂歌百鬼夜狂』を読む-』笠間書院 2014
及川 祥平	講師	成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻 博士課程後期	博士(文学)	民俗学	現代民俗学	日本の民話・神話(1)(2)	日本の祭りと儀礼	2010 「近代の贈位と人物顕彰をめぐる基礎的考察-新聞資料の分析から」小島孝夫編『地域社会・地方文化再編の実態』、成城大学民俗学研究所グローバル研究センター	2011 「武田信玄祭祀史考-近世・近代を中心に」『日本民俗学』268号	2014 「四十七士の祭祀・顕彰とその教育資源化-赤穂市における状況を中心に」松崎憲三編『人神信仰の歴史民俗学的研究』、岩田書院	2015 「祭礼的なる場における歴史表象と偉人表象-山梨県下の祭礼・イベントにおける状況を中心に」『信濃』67巻1号	2016 「地域史を根拠とする自治体間交流の諸相-交流締結経緯の分析から」『グローバル研究』3号
森田 直美	講師	日本女子大学大学院博士課程後期単位取得満期退学	博士・文学	平安朝文学	有職故実学	日本文化専門演習Ⅱ	古典文学を読む	『王朝文学を彩る軌跡』(共著)(武蔵野書院 2014年)	『虚構と歴史のはざままで(新時代への源氏学6)』(共著)(竹林舎 2014年)	『平安朝文学における色彩表現の研究』(単著)(風間書房2011年)	『平安中・後期の女房装束に見る「歌絵意匠」考』(『和歌文学研究』第107号、p14-27、2013年12月)	『『更級日記』「あさみどり花もひとつに霞みつ」詠再考』(紫式部学会編『むらさき』第46号、p31-42、2009年12月)

平成28年度 教員の学位・業績等

教育学部 幼児教育学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
柳澤 安雄	教授	東京芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻修士 課程修了	芸術学修士(音楽)	音楽	声楽	音楽 I	弾き歌い演習(1)	【単著】●CD柳澤安雄(バス・バリトン)「ロシアの叙情をうたう」, 単, 1990, ビクター音楽産業 ●CD柳澤安雄(バス・バリトン)「ロシアの叙情をうたうII」, 単, 1993, ビクター・エンターテイメント	【研究報告】小学校教員養成における「コミュニケーション能力」を高める教科教育法に関する研究報告, 第二章 小学校教科教育法の試みより, 7-1 音楽科の指導, 2011年9月, 教員養成研究会,	【演奏】●歌劇「椿姫」全曲公演, 共, 1999年, イタリア・テラモ市立歌劇場, ジョルジョ・ジェルモン役(父親: 柳澤安雄) ●2013年12月音楽物語『ぞうのババル』(ブランク作曲) 柳澤安雄朗読, 山梨県立大学第7回子育て支援フォーラム(ピアノ: 村木洋子)	【演奏】●二期会創立60周年記念公演, 第7回二期会研究会駅伝コンサート(2012年, 東京文化会館) ●2012年9月オペレッタ「こうもり」(フランク役)さいたまシテリオペラ, 第21回公演, さいたま市文化センター ●2014年3月オペラ「ランメルモールのルチア」イタリア語公演, (ライモンド役)IMAホール, 2016年7月, オペラ「サンドリヨン」(J. マスネ)父親パンドルフ役, 日本語公演, 東京シテリオペラ協会公演	【受賞】●1976年第38回東京文化会館推薦オーディション合格, 同出演 ●1977年第46回NHK・毎日音楽コンクール声楽部門入選
草信 和世	教授	明星大学大学院人文学研究科教育学専攻	修士(教育学)	児童学	保育学	保育の方法と技術	保育内容人間関係の指導法	子どもの育ちと「ことば」共著, 保育出版社	現代における保育者の専門性に関する一考察—子どもと響き合う保育者の身体知を求めて—, 共著, 保育学研究第47巻第2号	児童文化がひらく豊かな保育実践, 共著, 保育出版社	幼稚園実習ガイドブック—実習の中で磨かれる“技と心”—, 共著, 新読書社	新保育内容シリーズ言葉, 共著, 一藝社
近藤 光江	教授	日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修士 課程修了	芸術学修士	音楽	声楽	音楽 I	幼児音楽指導法(3)(歌唱法)	【研究紀要】「歌曲と歌唱法」についての一考察, チェコ編, その1, ドヴォルジャークの歌曲「民衆の音色風」川村学園女子大学研究紀要第12巻第2号, P.115-135, 2001年3月	【研究紀要】日本における音楽教育の歴史とその変遷, 川村学園女子大学研究紀要第18巻第2号, P.133-157, 2007年3月	【演奏活動】日本オペラ協会「創立50周年記念演奏会」日本歌曲とアリアによる, 2008年6月14日, 津田ホール	【コンクール】第11回全国「叱られて」歌唱コンクール, 受賞者による音楽会, 2009年9月12日, 和光市民文化センターサンアゼリア大ホール	【学会発表】日本幼少年健康教育学会, 第29回大会, 2010年9月18日・19日, 北九州市立ウエルとばた
永井 理恵子	教授	東京大学大学院教育学研究科教育学専攻学校教育開発学コース第一種博士課程満期修了	博士(教育学), 修士(文学)	幼児教育史(幼稚園教育実践史)	幼稚園教育環境	教育原理, 教育史, 教職の研究, 卒業研究, 卒業研究演習	保育内容研究「環境」	著書『近代日本幼稚園建築史研究』学文社, 平成17年(2005)(単著)	著書『近代日本キリスト教主義幼稚園の保育と園舎』学文社, 平成23年(2011)(単著)	著書『新現代保育原理』三晃書房, 平成21年(2010)(共著)	著書『新保育ライブラリ教育原理』三晃書房, 平成21年(2010)(共著)	著書『論集 現代日本の教育史 7 身体・メディアと教育』日本図書センター, 平成26年(2014)所収「東京女子(高等)師範学校附属幼稚園における建築と教育の変遷」(共著)
菅井 洋子	准教授	日本女子大学大学院人間生活学研究科人間発達学専攻博士課程後期修了	博士(学術)	発達心理学	乳幼児教育学	発達心理学	保育内容言葉の指導法	【著書】菅井洋子, 2012, 単著, 乳幼児期の絵本場面における共同活動に関する発達研究: 共同注意の指さしからの探究, 風間書房	【論文】菅井洋子, 単著, 保育所における乳幼児期の絵本場面に関する発達研究: 保育士への質問紙調査からみる3歳未満クラスの特徴を中心に, 川村学園女子大学研究紀要, 22(1), 227-250	【論文】菅井洋子, 2011, 単著, 乳児期の読書環境構成に関する発達研究: 絵本場面における実物への指さしを中心として, 発達研究, 25, 69-98	【論文】菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子, 2010, 共著, 乳児期の絵本場面における母子の共同注意の指さしをめぐる発達の変化: 積木場面との比較による縦断研究, 発達心理学研究, 21, 46-57	【論文】菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子, 2009, 共著, 乳児期の絵本場面における母子の実物への指さしをめぐる研究, 読書科学, 52(3), 148-160
近藤 千草	准教授	青山学院大学大学院文学研究科 教育学専攻 修了	教育学修士	教育学	幼児教育学	保育原理	保育内容健康の指導法	「保育者養成課程における初年次女子学生の職業意識に関する一考察」(単著)女性学年報, 第6号, (2015)	「保育者養成における「ひと・もの・こと」に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究—プログラムを通じたメタ認知の形成に向けて—」(単著) 保育士養成研究, 第31号, (2014)	「保育者養成におけるホリスティック・カリキュラムに関する一考察」(単著), ホリスティック教育研究, 第16号(2013)	「幼児教育における『健康』の指導法」, 『教科・領域の指導法に関する研究—言語活動を中心として—』(共著), 川村学園女子大学大学院人文学研究科教育学専攻教員養成研究会, (2015)	『教育人間科学の探究』「シュタイナー学校のオルタナティブスクールとしての展望—シュタイナー教育の認識経緯と現在の教育実践を手掛かりとして—」(共著), 学文社, (2011)
竹内 啓	准教授	東京芸術大学大学院美術研究科 日本画専攻 修士課程 修了	芸術学修士(美術)	美術	日本画	図画工作	幼児造形指導法	【展覧会】「遺跡の空—竹内啓展」日本橋高島屋X画廊, 東京, 2012	【展覧会】「ジヨモニスムⅡ展」御所野縄文公園博物館, 岩手, 2011	【共著】「弥生誌—岡岡記碑をめぐって」, pp.90-91, 東京大学総合博物館, 2011	【展覧会】「スサノヲの到来—いのち、いかり、いのり」足利市立美術館ほか, 2014~2015	【共著】「日本画—純粋と越境」, pp.46-47, 練馬区立美術館, 1998
箕輪 潤子	准教授	東京大学大学院教育学研究科総合教育学専攻博士課程単位修得満期退学	教育学修士	幼児教育学	保育学	保育内容総論	カリキュラム論	遊びがもっと魅力的になる—3・4・5歳児の言葉がけ—砂場編—若手保育者の指導力アップ(単著) 明治図書	幼児同士の砂遊びの特徴—ガーヴェイのごっこ遊び理論を手がかりとして(単著) 保育学研究44(2), pp.178-188	砂場における山作り遊びの発達の検討(単著) 保育学研究 45(1) pp.42-53	幼稚園における片付けの実態と目標との関連性の検討(共著 第一執筆) 乳幼児教育学研究 18 pp.41-50	保育の質研究の展望と課題(共著 第三章執筆) 東京大学教育学研究科紀要47 pp.269-277
手塚 崇子	講師	専修大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学	博士(経済学)	保育行政・財政	社会保障(子ども)・地方財政	現代社会と経済(1)	保育実習(施設)	【著書】手塚崇子(2014)「幼保一体化施設の運営と行政—就学前教育・保育の一元化をめぐって—」(単著) 専修大学出版局	【論文】手塚崇子(2016)「社会連帯における子育て支援の役割機能—幼稚園・保育所・認定こども園の役割機能」(単著) 『公募研究シリーズ 52』全労済協会	【論文】手塚崇子(2014)「幼保連携型認定こども園の行財政と経営: 過疎地M町を事例として」(単著) 『川村学園女子大学研究紀要』第25巻第2号, 51-70頁	【論文】手塚崇子(2010)「旧公立幼稚園と幼保一体化施設の財政比較—群馬県六合村「六合こども園」を事例として—」(単著) 『乳幼児教育学』第19号, 日本乳幼児教育学会, 121~132頁	【論文】手塚崇子(2010)「過疎地における幼保一体化施設の財政分析—和歌山県白浜町「幼保一元化施設白浜幼児園」を事例として—」(単著) 『保育学研究』第48巻第2号, 日本保育学会, 119~130頁
古屋 朝映子	講師	筑波大学大学院一貫制博士課程人間総合科学研究科スポーツ医学専攻(修士取得退学)	修士(スポーツ医学)	体操コーチング論	幼児体育指導法	体育 I・II	幼児体育指導法 I・II	【論文】「高齢女性の転倒経験および転倒不安感に関連する体力」(共著・筆頭) 『厚生労働省』60巻15号, 厚生労働統計協会, pp.17-22(2013)	【論文】「幼児の自発的な動きを引き出す用具に関する事例研究—使用方法を示さない遊具「ピリボ」に着目して—」(共著・筆頭) 『体操研究』11巻, 日本体操学会, pp.1-9(2014)	【論文】「小学校中学年を対象とした「体づくり運動」教材の検討—Gボールを用いた運動指導に着目して—」(共著) 『体操研究』11巻, 日本体操学会, pp.10-19(2014)	【研究発表】「乳幼児を持つ母親における子どもの運動遊びに関する危険認識についての一考察」(共同・筆頭) 日本コーチング学会, 平成26年第25回日本コーチング学会大会, 茨城(2014)	【論文】「震災避難者の語りからみる体操教室参加の意味づけ—福島県双葉町から茨城県つくば市への避難者の事例から—」(共著・筆頭) 『コーチング学研究』第29巻, 第2号, 日本コーチング学会, pp. 139-148(2016)
西村 彩恵	助教	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達学専攻博士後期課程 単位取得満期退学	修士(教育学)	教育学	社会教育学・生涯学習論	家庭支援論	保育相談支援	「学校支援地域本部事業における地域コーディネーター支援と活動の継続性—栃木県佐野市B中学校区学校支援地域本部事業の事例から」(共著), 2014, 『日本学習社会学会年報』第10号	「学校支援活動における意味づけの重要性—地域コーディネーターの活動の展開に着目して」(共著), 2016, 『川村学園女子大学研究紀要』第27巻第2号	「学校支援活動におけるコーディネーターの活動プロセスに関する考察—東京都杉並区A小学校の学校支援本部の取り組みから」(単著), 2013, 『越谷保育専門学校研究紀要』第2号	「教師と学校支援ボランティアの相互理解の重要性—神奈川県相模原市立A小学校の取り組みに着目して」(共著), 2011, 『人間文化創成科学論叢』第13巻	「話し合いにおける学習支援者の位置づけと活動の発展性—地域の学習活動に着目して—」(単著), 2010, 『社会教育職員研究』第17号

平成28年度 教員の学位・業績等

教育学部 児童教育学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
松井 洋	教授	青山学院大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程	文学修士	社会心理学	文化心理学	教育心理学(教職科目)	社会病理学(大学院人文科学研究科心理学専攻科目)	松井洋2014大学生の世界観・人間観・自己観と幸福感, 川村学園女子大学研究紀要, 第25巻, 85-106.	松井洋2013若者の世界観と適応, 川村学園女子大学研究紀要, 第24巻, 107-129.	松井洋2012大学生の大学適応に関する研究Ⅲ(共著)川村学園女子大学研究紀要, 第23巻 第1号, 117-129.	松井洋2005非行的態度の抑制因に関する社会心理学的研究(共著)季刊社会安全, No.57 18-25. (財)社会安全研究財団	松井洋1998愛他性の構造に関する国際比較研究(共著)社会心理学研究, 第13巻, 2号, 133-142.
福士 顕士	教授	北海道大学大学院理学研究科化学第二専攻博士課程	理学博士	物理化学	認知科学	理科	理科教育法	【著書】理科年表をおもしろくする本, 共著, 丸善, 1999	【報告書】教育課題研修指導者海外派遣プログラム報告書「理数系教育」ブルガリア(I-I回), 共著, 独立行政法人教員研修センター, 2008	【学術論文】知覚の階層性に依存する複合図形と充填図形の良さと複雑さ, 共著, 基礎心理学研究, 第31巻第2号, 2013	【学術論文】パターンの良さ判断に与える準変換群構造の効果, 共著, 情報処理学会論文誌, 第54号第6号, 2013	【学術論文】小学校生活科における「気づきの質」に関する一考察—理科への接続の視点から—, 単著, 川村学園女子大学研究紀要, 第25巻第2号, 2014
猪瀬 義明	教授	千葉大学教育学部養護学校教員養成課程	教育学士(養護学校教員免許状1種)	知的障害教育分野	肢体不自由教育分野	教職実践演習	特別支援教育論	個別移行支援計画を活用した効果的な進路指導・卒業後支援の在り方について(I)(II), 研究紀要・平成16~17年度千葉県研究指定(共著)千葉県立我孫子養護学校	将来を見据えた自力通学支援「自閉症教育新時代実践の手引き」2007年(共著)明治図書	中学部・知的障害対応各教科改善の考え方や指導計画「改訂学習指導要領準拠 特別支援学校新教育課程編成の手引き」2010年(共著)明治図書	指導に関する記録—特別活動、行動、自立活動、総合所見及び指導上参考となる諸事項「特別支援学校改訂指導要領の解説と記入例」2011年1月(共著)明治図書	「トリプルハンディキャップのある生徒の言語形成過程への学習支援について (I)(II)(III)(IV)(V)」研究紀要, 平成22・23・24・25・26年度, 川村学園女子大学
尾見 敦子	教授	お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科単位取得満期退学	教育学修士	音楽教育学	幼児教育	音楽	音楽科教育法	『幼児と音楽—ゆたかな表現力を育てる—』(共著), 有斐閣, 1985	『音楽の生涯学習』(共著), 玉川大学出版部, 2000	「学生とともに創った『親子のためのわらべうた活動』の一年間—大学における教育実践の研究—」『川村学園女子大学研究紀要』, 第19巻第2号, 2008	「なぜ音楽の授業で読譜力が養われないのか—ハンガリーの音楽教科書が語るもの—」『川村学園女子大学研究紀要』, 第26巻第2号, 2015.	「諸外国に見る音楽教育における『幼小接続』—フィンランドとハンガリーの事例から—」『川村学園女子大学研究紀要』, 第26巻第2号, 2015.
田中 孝一	教授	兵庫教育大学大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻言語系コース	修士・学校教育学	国語科教育学	教育課程論	国語科教育法	国語	「国際社会が求めるこれからの能力『アクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくり』高校国語の授業改革」共著 明治書院 pp.10-16, 2016年	「2030年の社会を生きるための資質・能力—生涯学習教育課程言語能力—」『これからの時代に求められる資質・能力の育成とはアクティブな学びを通して』共著 東洋館出版社 pp.15-18, 2016年	【著書】『新評価規準を生かす授業づくり 小学校編』編共著 ぎょうせい 2011年	【論文】「今、なぜ、国語の授業を変えるのか」『日本語学』NO.33-5 pp.4-17 2014年4月臨時増刊号	【論文】「学習指導要領にみる漢字の指導基準の変遷—国語教育政策の一側面—」『日本語学』NO.312 pp.139-150 2006年
原田 耕平	教授	筑波大学大学院教育研究科教科教育専攻	教育学修士(筑波大学)	数学教育学	比較教育学	算数科教育の理論と方法(大学院比較文化専攻後期課程専門科目)	比較教育学専門研究演習(大学院比較文化専攻後期課程専門科目)	【学術論文】学校数学における子どものmisconceptionの同定と克服(単著), 日本数学教育学会誌論究, Vol.55, pp.3-16, 1992.	【学術論文】The effects of using Cabri-Geometry in Geometrical Proof-Problem Solving —France-Japan Collaborative Research—(in collaboration), Journal of Science Education in Japan, Vol.21, No.3, pp.172-182, 1995.	【学術論文】幾何の証明問題の解決を支援するカブリ・ジオメトリの利用(単著), 日本科学教育学会20周年記念論文集, pp.285-292, 1996.	【著書】『生徒の考えを活かす問題解決授業の創造』(共著), 明治図書, 1999	【翻訳書】ジャン・ピアジェ『ピアジェの教育学』(共著), 三和書籍, 2005
高橋 裕子	准教授	武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科	造形学士	生活造形	被服構成	クラフト	生活美学	「意匠家としての山東京傳—『手拭合』にみる意匠の特徴(1)—」単著, 川村学園女子大学研究紀要, 第25巻第2号	「小学校における食教育の必要性」共著, 川村学園女子大学研究紀要, 第18巻, 第3号	日本伝統手芸 第16回 巧技ソサエティー美術展 <奏炎> 東京都議会議長賞受賞	「巧の技・極みの煌めき」共著, (株)美術年鑑社発行	全国手芸コンクールinひょうご入選
馬上 美知	准教授	東京大学大学院総合教育科学教育学コース単位取得満期退学	教育学修士	教育思想		教育原理	教育社会学	【学術論文】「社会科 基本的な人権をどう教えるか—言語活動の充実した授業の探求—」(単著)『小学校教員養成における「コミュニケーション能力」を高める教科教育法に関する研究』川村学園女子大学, 2012	【学術論文】“How Martha Nussbaum defines the role of schooling —capability approach and child poverty.” (単著) The Korean Journal of Philosophy of Education, Korean philosophy of education society, vol.33, no.4, pp.69-85, 2011	【学術論文】「ケイバビリティ・アプローチにおける「自由」および「平等」概念について—教育における公共性概念の再考のために—」(単著)東京大学大学院教育科学研究科教育研究室『研究室紀要』第35号, 23-32頁, 2009	【学術論文】「M.C.ヌスバウムの思想—教育における公共性再考のための基礎作業として—」(単著)『教育学研究』日本教育学会, 73巻4号, 420-430頁, 2006	【学術論文】「M.C.ヌスバウムの思想—教育における公共性再考のための基礎作業として—」(単著)『教育学研究』日本教育学会, 73巻4号, 420-430頁, 2006
松井 浩	准教授	青山学院大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士前期課程修了	工学修士, 工学士	情報科学	ネットワーク利用技術	情報処理(1)(2)	情報メディア演習	【著書】『MS-WORKS機能百科』単著, 技術評論社	【著書】『MS-DOSテキストデータ料理学』共著, 翔泳社	【著書】『PC-98全生活の知恵』共著, 翔泳社	【論文】計量経済分析用アプリケーションTSPのインストール, 単著, 青山コンピュータサイエンス, 青山学院大学情報科学研究センター	【論文】パソコンでの高水準ソフトの利用について, 単著, 川村短期大学紀要, 川村短期大学
松本 祐介	講師	筑波大学大学院博士後期課程体育科学専攻単位取得退学	修士(教育学)	体育科教育学	スポーツ教育学	体育科教育法	健康スポーツ論	小学校低学年の体育授業における捕球技能の習得—捕球動作の選択の学習とその効果—, (2013)スポーツ教育学研究, 33(2):1-13.	小学校低学年における捕球技能向上のための学習プログラムの開発—動作の選択と体幹の移動に着目して—, (2010)日本スポーツ教育学会第30回記念大会ポスターディングス, pp.132-138.	Development of an assessment rubric for catching skill of the ball coming to the front of the body. (2012)North East Asia Sport Pedagogy Conference (国立台湾師範大学)	小学校低学年における捕球動作の学習必要性—学習の有無による捕球動作の相違から—, (2015)川村学園女子大学研究紀要, 26(2):63-80	

平成28年度 教員の学位・業績等

教育学部 社会教育学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
藤原 昌樹	教授	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程 満期退学	修士(スポーツ健康科学)	スポーツ社会学	武道論	生涯スポーツ・施設論	余暇生活論	『小学校教員養成における「コミュニケーション能力」を高める教科教育法に関する研究』, 共著, 株式会社ワードオン, 2011.	『保健指導のすすめ方』(養護教諭のための実践教育保健学講座第11巻), 単著, 出版科学総合研究所, 1985.	『べりりな教材 “からだの学習”』(養護教諭のための実践教育保健学講座第12巻), 単著, 出版科学総合研究所, 1985.	「生涯スポーツと支援者」, 日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報』第25号, 単著, 日本生涯教育学会, 2004.	「大日本武徳会における階級規程の変遷とその意味」, 『日本体育学会第60回大会体育社会学専門分科会発表論文集』, 共著, 体育社会学専門分科会, 2009.
藤田 節子	教授	東洋大学社会学部応用社会学科図書館学専攻	学士(図書館学)	図書館情報学		図書館概論	情報サービス論	『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』(単著)日外アソシエーツ,2009	『図書館活用術—情報リテラシーを身につけるために』新訂第3版(単著)日外アソシエーツ,2011	図書館に関わる著作権法条項の成立の過程:第30条私的使用のための複製と第31条図書館等における複製(単著)現代の図書館,47(3),2010,p.163-178	失われていくインターネット上の参考文献:図書館情報学分野の雑誌論文に参照されたインターネット文献の入手可能性の分析調査(単著)情報管理,53(9),2010,p.493-503	国内科学技術系学会誌の投稿規定の分析:参照文献の記述,著作権を中心として(単著)情報管理,48(10.11),2006,p.667-676,723-734
西川 将巳	教授	東京大学 医学部 医学科	医学士、文学士	心身医学	脳神経科学、臨床心理学	心の科学1, 2	心身医学特論(1)(2)(大学院)	学術論文 共著, Sakai Y, Nishikawa M, Diksic M, et.al.: α -[11C] methyl-L tryptophan-PET as a surrogate for interictal cerebral serotonin synthesis in migraine without aura. Cephalalgia. 34(3):165-73, Mar, 2014	学術論文 共著, Frey BN, Nishikawa M, Diksic M, et.al.: Gender differences in alpha-[[11C]MTrp brain trapping, an index of serotonin synthesis, in medication-free individuals with major depressive disorder: a positron emission tomography study. Psychiatry Res. 183(2):157-66, Aug, 2010	学術論文 共著, Nishikawa M, Diksic M, Gill K, et.al.: Alterations in brain serotonin synthesis in male alcoholics measured using positron emission tomography. Alcohol Clin Exp Res. 33(2):233-9, Feb, 2009	学術論文 共著, Berney A, Nishikawa M, Diksic M, et.al.: An index of 5-HT synthesis changes during early antidepressant treatment: alpha-[11C]methyl-L-tryptophan PET study. Neurochem Int. 52(4-5):701-8, Mar-Apr, 2008	学術論文 共著, Sakai Y, Kumano H, Nishikawa M, et.al.: Changes in cerebral glucose utilization in patients with panic disorder treated with cognitive-behavioral therapy. Neuroimage. 33(1):218-26, Oct 15, 2006
二上 政夫	教授	日本大学文理学部応用地学科	理学博士(1985年,九州大学)	地質・古生物学	博物館学	古生物学	博物館概論	Revision of Yabeiceras, a Coniacian (Late Cretaceous) ammonite genus, based on material from the type locality in Fukushima, Japan (共著), 2016, Cretaceous Research, Vol. 61 (国際誌)	Early Albian (Early Cretaceous) douvilleiceratid ammonites from Haida Gwaii, British Columbia, Canada (共著), 2016, Journal of Paleontology, Vol. 90, Issue 01 (国際誌)	Two new ammonoid genera of the subfamily Gabbiceratinae from the Upper Albian (Lower Cretaceous) of Hokkaido, Japan (共著), 2012, Paleontological Research, Vol. 16, No. 3 (日本古生物学会誌)	我が国における学芸員養成の諸問題(単著), 2009, 社会教育, 64巻 (No. 761) 11月号	New species of the genus Douvilleiceras (ammonoid) from the Lower Cretaceous Yezo Group in Hokkaido (単著), 2003, Proc. Japan Acad., Ser. B. Vol. 79, No. 8 (日本学士院紀要)
佐久間 美穂	講師	日本女子大学大学院人間社会研究科博士前期課程 修了	修士(社会福祉学)	社会福祉		社会福祉	相談援助	『中心と周縁-タイ・天草・シカゴ』(共著)春風社, 2013	「アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (APASWE) の歴史と現状-APASWEに関する文献調査を通じて」(単独)『人間関係学研究13』, 2012, 大妻女子大学	「家郷喪失の時代とコミュニティ」(単独)『人間関係学研究14』, 2013, 大妻女子大学	「国家とコミュニティ-忍草入会闘争を通じて」(共同)『社会福祉第55号』, 2015, 日本女子大学	「コミュニティ研究の焦点とその推移—創造的コミュニティの形成のために」(単独)『川村学園女子大学研究紀要』Vo1. 27No. 2016

平成28年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 生活文化学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
川崎 恵里子	教授	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(文学), 文学修士, 教育学士	認知心理学	心理言語学	認知心理学	心理学研究法 I (実験法)	知識の構造と文章理解(単著)風間書房, 2002	文章理解の認知心理学(編)誠信書房, 2014	認知心理学の新展開(編著)ナカニシヤ出版, 2012	物語文と説明文の状況モデルはどのように異なるか—5つの状況的次元に基づく比較—(共著)教育心理学研究, 54, 464-475, 2006	テキストからの学習におけるワーキングメモリの効果(共著)心理学研究, 82, 223-230, 2011
坂口 早苗	教授	北里大学大学院 衛生学研究科 博士課程 地域保健学専攻	保健学博士, 衛生学修士	保健・健康教育	保健衛生学	女性健康学	子どもの保健	改訂 健康・保健の科学—出生前からの健康をめざして—, 共著, 日本小児医事出版, 2010年.	金属耐性赤痢菌の分離と実験赤痢感染症に対する応用, 第1報 耐性赤痢菌の分離とその性状, 単著, 感染症学雑誌, 第54巻, 第3号, pp. 27-35, 1980年.	Effect of beryllium chloride on porphyrin metabolism in pregnant mice administered by subcutaneous injection, 共著, Toxicology and Environmental Health, 第50巻, 第3号, pp.101-111, 1997年.	Time-related Changes in Splenic Immunocyte Population in Mice after a Subcutaneous Injection Beryllium, 共著, Trace Elements and Electrolytes, 第18巻, 第3号, pp. 107-111, 2001年.	人気グループの主演ドラマにおける喫煙関連シーン, 共著, 皮膚と美容, 第46巻, 第2号, pp.44-49, 2014年.
今井 久美子	教授	女子栄養大学栄養学部栄養学科実践栄養学専攻	博士(医学)	栄養教育・指導	食文化	栄養指導理論	臨床栄養学	【著書】(共著)今井久美子:栄養士養成課程のための栄養学実験実習・演習 基礎と応用(第2版)/渡邊早苗, 山田和彦編, pp70-73, pp86-87(2015)建帛社, 東京	【著書】(共著)今井久美子:改訂栄養指導論(Nブックス)/相川りゑ子編, pp76-79, pp149-151(2015)建帛社, 東京	【著書】(共著)今井久美子:閉経期(更年期)の栄養管理, 応用栄養学(スタンダード)人間栄養学/五明紀春, 渡邊早苗, 山田哲雄, 吉野陽子編, pp107-114(2010)朝倉出版, 東京	【紀要】今井久美子:川村女学院における健康教育と食育(2), 川村学園女子大学研究紀要, 26巻2号, 99-117(2015)	【紀要】今井久美子:乳児期の鉄欠乏性貧血と鉄摂取量の検討, 川村学園女子大学研究紀要, 21巻, 191-209(2010)
大坂 佳保里	教授	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 修士課程 スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了	修士(保健学)	食品加工学	食生活・文化	食品加工学	食生活論	【著書】食べ物と健康(食品学各論)(共著)「八千代出版」	【著書】地域食材大百科(共著)「農山漁村文化協会」	【著書】モンスーン・アジアの村を歩く(共著)「家の光協会」	【論文】中国古代の飯類及び粥類の再現に関する研究(共著)伝統食品の研究「日本伝統食品研究会」	【報告書】児童・生徒の日常生活に関する調査—茨城県下の小学5年生と中学2年生を対象として—「YAMAGATA 株式会社」
小野崎 康裕	教授	日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程単位取得満期退学	文学修士	美学	美術史	美学	哲学概論	『クレッチマーの思想』(共著)有斐閣, 1986年	『哲学者たちの考えたこと』(共著)エルピス, 1990年	「ニコラ=ブッサンの『時』と『真実』」『平成12-14年度/文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書/17世紀フランスにおける挿絵本と絵画についての総合的研究』2003年	「古代ギリシア変身譚の系譜」『平成15-17年度/文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書/17世紀フランスにおけるオウディウスの挿絵と絵画についての総合的研究』2006年	「イオの遍歴 — オウディウスへ至る物語伝承の一側面 — (1)」『川村学園女子大学研究紀要』第20巻・第2号, 2009年
坂口 武洋	教授	北里大学大学院 衛生学研究科 公衆衛生学専攻	医学博士, 衛生学修士	公衆衛生学	社会医学	公衆衛生学	医薬と検査	カレント 社会・環境と健康:公衆衛生学, 共著, 建帛社, 2014年.	Positive reaction in mouse ligated intestinal loop assay with nonenterotoxigenic and nonhemolytic strains of Staphylococcus aureus, 共著, Journal of Clinical Microbiology, 第26巻, 第3号, pp.600-601, 1988年.	Distribution of radioisotopic beryllium in mice after administration by various routes of injection, 共著, Journal of Toxicology and Environmental Health, 第39巻, 第4号, pp. 517-526, 1993年.	Effect of beryllium on δ -aminolevulinic acid dehydratase and porphobilinogen deaminase in pregnant mice, 共著, Pharmacology & Toxicology, 第79巻, 第6号, pp. 214-216, 1996年.	Effects of beryllium on the complement and coagulant system in sera of mice, 共著, Trace Elements and Electrolytes, 第14巻, 第1号, pp. 19-23, 1997年.
永嶋 久美子	教授	昭和女子大学大学院生活機構研究科博士後期課程生活機構学専攻修了	博士(学術)	調理科学	食教育	調理学	給食管理実習	【著書】『一食献立による調理実習25 第2版』共著, 医歯薬出版, 2016年	【著書】『Nブックス 実験シリーズ 調理科学 実験』共著, 建帛社, 2009年	【著書】『新時代の栄養教育実践』共著, 同文書院, 2011年	【論文】『大学生の偏食行動様式別食習慣および健康習慣の実態』共著, 日本公衆衛生雑誌, 第49巻, 第5号, pp.447-455, 2002年	【論文】『伝統的凍みもちの物理的特性および食味特性の解明』共著, 日本調理科学会誌, 第44巻, 第6号, pp.391-399, 2011年
林 正之	教授	東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了	工学博士	応用界面化学	繊維工学, 代替医療	テキスタイル論	生活の数学	衣服材料の科学[第3版] 衣の科学シリーズ 共著 建帛社	医学・医療用語ハンドブック 編共著 建帛社	これならわかる生活科学ハンドブック 共著 プレイン出版	ポリエチレンテレフタラートの表面張力の延伸による変化 共著 高分子論文集	北京中医醫院鍼灸科研修に参加して (報告記事) 単著 医道の日本社
柚木 理子	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程人間発達学専攻	博士(学術), Ph.D. in Social Studies, 家政学修士, 文学修士	ジェンダー社会論	労働社会学	現代社会研究	ジェンダー研究入門	「休み方・働き方の日独比較の試み——時短は誰を暇にしたか」、単著, 1993年7月、原ひろ子・大沢真理編『変容する男性社会 労働、ジェンダーの日独比較』、新曜社、pp.269-283	「ワークシェアリングとジェンダー——ドイツにおける1970年代終わりの議論を中心に」、単著, 2001年3月、竹中恵美子編『労働とジェンダー』、明石書店、pp.191-216	“The Women’s Movement within Trade Unions in Germany”, 単著、Signs, Journal of Women in Culture and Society, vol.33 No.3, 2008, Spring, pp.519-527	「労働組合の時短政策にみられるジェンダーの再構築」、単著, 2009年2月、姫岡とし子編、『ジェンダー—史研究入門』、青木書店、pp.159-166.	「働く場の女性」、2012年6月、上林千恵子編、『よく分かる産業社会学』、ミネルヴァ書房、pp.112-131.
関目 綾子	講師	東京家政大学大学院人間生活学専攻(博士課程)	学術博士	解剖生理学		解剖生理学(1)、(2)	栄養学各論	「インスリン情報伝達に関わる蛋白SHIP2の遺伝子トランスジェニックマウスの作成と表現型の検索」消化吸収31巻1号 2009年	「Administration of ursodeoxycholate failed to prevent sludge and/or gallstone formation in cholecystokinin-1(A) receptor-deficient mice」Biomedical Research 32(6) 2011	「食事誘導性肥満に対する生物学的性差の影響」消化と吸収 34巻 2012年	「Sex difference in the effects of alcohol on gastric emptying in healthy volunteers: A study using the 13C breath test」Biomedical Research 34(6) 2013	「コレシストキニン1受容体ノックアウトマウスにおけるアルコール摂取行動の性差」消化と吸収 36巻3号 2013年

平成28年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 観光文化学科

氏名	職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④	主たる研究業績等⑤
西岡 祥文	教授	早稲田大学大学院文学研究科英文学専攻	文学修士(早稲田大学), 商学士(慶応義塾大学), 文学士(日本大学), 文学士(佛教学), B.A.(米国, インディアナ大学)	アメリカ文学	アメリカ文化	観光文化専門演習(観光文化:アメリカ)	観光文化(アメリカ)	<著書>『野の花空の鳥—滝沢克己先生の思い出—』(共著)(創言社, 1986)	<論文>『八月の光』における人種差別とキリスト教—ハインズとジョアンナの黒人差別—(『キリスト教文学研究』第17号, 2000)	A Study of Religious Fatatics in William Faulkner's Light in August: Simon McEachern (『川村学園女子大学研究紀要』第17巻, 第3号, 2007)	滝沢克己と『歎異抄』(1)—「インマヌエルの原事実」と「弥陀の本願」—(川村学園女子大学研究紀要)第19巻, 第2号, 2008)	<翻訳>『Stony Lonesome 5 : Sixty-Five Poets』(Nosferatu Press, 1995)
高山 啓子	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻	修士(人文科学)	社会学	コミュニケーション論	社会学	観光社会学	『文化の社会学—実践と再生産のメカニズム—』(宮島喬編)(共著)有信堂1995年5月	『語る身体・見る身体』(西阪仰・山崎敬一編)(共著)ハーベスト社1997年12月	マイケル・リンチ『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』(水川喜文、中村和生、浦野茂、前田泰樹、高山啓子、岡田光弘、芦川晋訳)(共訳)顕草書房2012年10月	『協同作業場面の身体配置—通信指令室における社会空間の構成—』(単著)『年報社会学論集』10号157-168頁、1997年6月	『テーマ化される観光とまちづくり』(単著)『川村学園女子大学研究紀要』第25巻第1号55-65頁、2014年3月
田中 実	教授	インディアナ大学大学院応用言語学	文学修士(英語学)	応用言語学	認知意味論・言語学	観光英語VI	観光英語IV	“A Persistent Role of Learners' L1-Knowledge in the Acquisition of Lexical Terms of a Second Language”『英語展望』(ELEC Bulletin) 1992年春号(No.98)(1991年度 ELEC賞 B部門(英語教育及び英語教授法に関する研究論文)受賞論文)	『Anyのコアの意味』(2010)川村学園女子大学研究紀要 第21巻第2号	『応用言語学事典』編集コーディネーター・原稿執筆 研究社 2003	『エグジット英和辞典』原稿執筆 ベネッセ・コーポレーション 2003	『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』共著(第4章「語彙の習得」を担当、執筆)大修館書店1994
丹治 朋子	教授	立教大学大学院観光学研究科観光学専攻博士課程後期課程	修士(社会学)	ホスピタリティ・マネジメント	観光学	ホテル・マネジメント	外食産業論	『観光経営学』(共著)朝倉書店	『観光まちづくりのマーケティング』(共著)学芸出版	『観光学入門』(共著)有斐閣	『新・大江戸東京の歩き方—東京シティガイド検定公式テキスト』(共著)ダイヤモンド社	『新版食品の消費と流通』(共著)建帛社
寺本 久男	教授	上智大学文学部新聞学科	学士(ジャーナリズム)	航空事業論		航空事業論	顧客サービス論					
戸澤 純子	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	知覚心理学		心理学	観光心理学	Junko Tozawa(2012) Height perception influenced by texture gradient, Perception, 41, 774-790.	Junko Tozawa (2010) Role of a texture gradient for the perception of relative size, Perception, 39, 641-660.	Junko Tozawa (2008) Speed constancy and the perception of distance, Perception, 37, 3-21.	Junko Tozawa & Tadasu Oyama(2006)Effects of motion parallax and perspective cues on perceived size and distance, 35, 1007-1023.	【学位論文】戸澤 純子(1999) 視空間における対象の大きさ知覚に関する実験的研究
藤井 信行	教授	日本大学大学院文学研究科博士後期課程(歴史学専攻)満期退学	文学修士, MA(イリノイ大学)	観光歴史学	19世紀・20世紀ヨーロッパ国際関係史	観光歴史学	世界史	『ヨーロッパの古城と宮殿』(単著)(新人物往來社, 2012年)	『日英同盟協約交渉とイギリス外交政策』(単著)(春風社, 2006年)	『歴史遺産と『観光歴史学』』(『総合観光研究』第12号, 2013年)	『歴史遺産としての記録と記憶の保存』(『復興ツーリズム:観光学からのメッセージ』所収, 同文館出版, 2013年)	『世界遺産トロイヤの観光歴史学的考察』(『川村学園女子大学研究紀要』第18号, 2007年)
渡邊 徹	講師	早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程修了	博士(商学)	交通経済学		経済学概論	観光概論	『今後のわが国交通インフラの整備・運営に係る論点整理』『成城大学 社会イノベーション研究』第11巻 第1号, pp.77-88, 成城大学社会イノベーション学会, 2016年	『わが国自動車重量税のさらなる問題点—軸重課税の提案と論点—』『川村学園女子大学研究紀要』第二十六巻 第二号, pp.175-186, 川村学園女子大学図書委員会, 2015年	『連邦制改革後のドイツの地域交通に対する連邦補助制度—地域交通助成法から解消法への移行を中心に—』『交通学研究』2010年研究年報, pp.115-124, 日本交通学会, 2011年	“An Overview of the Outlook and Analysis of Problems regarding the Federal Financial Aid System for Local Transport in Germany: With a Main Focus on the Disentanglement Law and the Regionalization Law,” The Bulletin of the Graduate School of Commerce, No.71, pp.351-363, Tokyo: Waseda University, 2010	『ドイツ連邦議会選挙とドイツ鉄道民営化問題のゆくえ』『運輸と経済』第70巻第4号, pp.58-63, 運輸調査局, 2010年